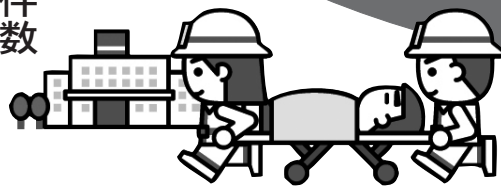




寄贈された西救急5号車



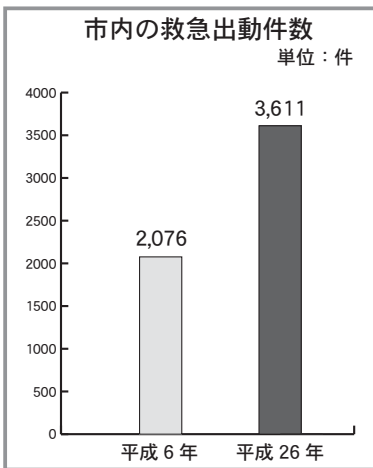
一人でも 多くの 命を



市内の救急出動件数

近年、全国的に救急需要の増大が課題になっています。次のグラフのとおり、岩見沢市も例外ではありません。

一年間の救急出動件数は、20年前と比較すると1千500件以上も増えています。



救急体制の強化

10月22日(木)、全国共済農業協同組合連合会(JA共済連)から高規格救急車が寄贈されました。

この救急車は、以前より地域の皆さんから救急車配備の要望があり、年間約400件の救急出動が想定される、上幌向や幌向地区を中心とした西側の地域に対応するため、岩見沢消防署西出張所(中幌向町71)に配備することとし、11月1日(日)から運用を開始します。

今まで西側の地域の救急出動は、岩見沢消防署(6東1)から救急車が出動し、救急車が到着するまでの間、西出張所の救急救命士の資格を持った隊員が消防車で出動し、救命処置を行っていました。これから

は、西出張所から救急車が出動するため、より早く医療機関に傷病者を搬送することができます。

西側だけではない

市内全域を4台の救急車に対応していましたが、これからは、5台の救急車で出動することになります。これは、配備される西側の地域だけでなく、岩見沢市全体の救急体制の充実、救命率の向上につながります。

◆ 複雑多様化している救急事案。さまざまな救急要請に対応できるように、寄贈された救急車を有効に活用していきます。

問合先 岩見沢地区消防事務組合消防本部警防課 ☎22局4302

高規格救急車って？

救急救命士が行う救急救命処置に必要な資器材を積載しています。人工呼吸器や自動体外式除細動器(AED)などの機器、医療機関との連携に必要な携帯電話などを積載し、心肺停止状態の傷病者に対し救急救命士が車内において高度な処置を行うことのできる救急車です。

【配備された救急車の特徴】

- プライバシー保護と酔い止め防止のため、上方から外が見えるよう、窓の3分の2にくもりフィルムを貼付
- 雪などによる悪路でも、搬送中の傷病者の揺れを軽減することが出来る防震ベット(ストレッチャー)の設置
- 上空から防災ヘリやドクターヘリが見やすいよう、車両上部にも赤色灯を設置

